



桜区 土合中学校 教諭 高 梨 清 仁

## 1 はじめに

本校は、さいたま市西部に位置し、西に荒川河川敷を有し、学区を国道17号バイパスが縦断し、六間道路が正門前を通る交通量の多い住宅地である。生徒数も950名近くおり、部活動も盛んである。今年度埼玉県新人体育大会では、サッカー部とハンドボール部が優勝することができた。

また、純粋な心をもつ生徒が多く、素朴な疑問を意欲的に解決しようとする、旺盛な探究心を感じる場面も少なくない。

## 2 今年度の主な取組

### (1) ICT機器を活用した授業の取組

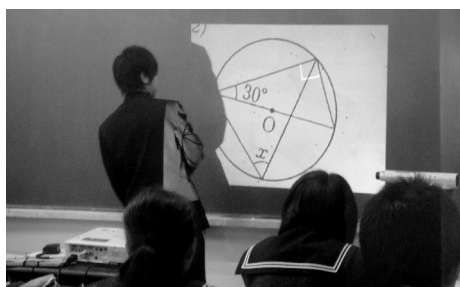
#### ① ICT機器活用実技研修会

ICT機器を活用した授業を実践していくために、定期的に外部から講師を招いたり、部会の中での実践研修会を通して、ICT機器を活用することの良さや利点を実感できるようにした。

#### ②授業実践事例報告会

効果的な活用上のポイントを他教科・領域の実践から見いだし、授業の中でお互いに刺激し合い、積極的にICT機器を活用できるように取り組んだ。当初のねらい以上に、実践報告をするなかで、教科・領域の枠を越えて、積極的に教材製作等についての質問会を行ったり、機材の活用方法についての意見の交換なども活発に行われた。

また、様々な機器の活用方法の発表は、自分の教科での活用方法等考える機会となった。



### (2) 情報化社会に参画する態度の育成

生徒が課題や目的に応じて、必要な情報を主体的に収集・判断・処理・創造することができる。受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる等、「情報活用の実践力」を育成することは現代の社会において重要なことである。情報モラルの必要性や情報に対して、発信する際の責任について考えることが「情報化社会に参画する態度」の育成につながると考えた。

### (3) 校務におけるICT機器の活用

ICT機器の有効活用により、校務の効率化を図り、生徒へのきめ細やかな指導を行う時間の確保に取り組んだ。

中でもテスト作成&処理に主眼をおき、「手書き採点ペン」を用いてテスト処理の効率化の研究を進めた。教科書会社が作成した、「問題集」の形式である「問題作成データベース」は校務に要する時間短縮に大きな成果を上げた。



## 3 おわりに

本校では、学校行事や部活動を含めた全教育活動を通して、学校教育目標の具現化に努めてきた。その中で、「分かる授業・楽しい授業」の実践や情報モラルの定着をするためにICT機器を活用していくことが日常的に取り組めるようになってきている。

今後も魅力ある授業の実践や主体的な生徒の活動の推進に努め、よりよい学校づくりに取り組んでいきたい。